

## 参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	視点「伊達政宗の若林城と宮城刑務所」
著者 / 所属	久保田正志 / 法務委員会調査室
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	465号
刊行日	2024-4-12
頁	2
URL	<a href="https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/ripou_chousa/backnumber/20240412.html">https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/ripou_chousa/backnumber/20240412.html</a>

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください (TEL 03-3581-3111 (内線 75020) / 03-5521-7686 (直通))。

## 伊達政宗の若林城と宮城刑務所

法務委員会 専門員

くぼた まさし  
久保田 正志

1789年のフランス革命はバスチーユ監獄への市民の攻撃が発端とされるが、バスチーユ監獄はもともとは城塞都市だったパリの一角を占める内郭で(仏語の**bastille**は城塞を意味する)、1659年以降、監獄として使用されていた。ロンドン塔も1078年に築かれた城で、1282年からは監獄としても用いられ、最後の収監者は第二次大戦時に英国に飛来して捕らえられたナチドイツの副総統ルドルフ・ヘスだった。このようにヨーロッパでは古城や要塞を監獄や収容施設に転用した例が枚挙にいとまがない。

一方、日本で城郭を監獄・収容施設の類いに転用した例は余りない。大分市の府内城に人質櫓(現存)があるように、城郭に「収容」の機能があることは日本でも認識されていた。しかし、幕末まで存続した城郭の多くは明治に入ると鎮台といった軍事施設(熊本城等)あるいは行政施設に転用され、城郭(あるいは跡地)の監獄等への転用例は、宮城刑務所のほか、天津市にあった膳所城の一部が明治9年に仮懲役場となり後に滋賀刑務所となった例(昭和41年に移転)と、将軍家の鷹狩りの際の御殿の敷地(その前身は旗本屋敷で土塁等を備える)に東京集治監(後に小菅監獄、現東京拘置所)が建てられた例くらいである。

宮城刑務所の前身である宮城集治監は、伊達政宗が隠居用として寛永5年(1628)に築いた若林城の跡地に建てられた。城の広さは東西約400m、南北約350mで、長方形に近い単郭の回りに堀を巡らすという縄張りだった。城自体は寛永13年の伊達政宗の逝去後は機能を失い、一部は薬草園になっていたが、幕末期には荒地に近い状態だったようである。

明治10年(1877)の西南戦争で多くの国事犯が生じたことから、明治11年3月から若林城跡に残る土塁や空堀を活かす形で宮城集治監の建設が始まり、翌12年8月に落成した。後に衆議院議長となる河野広中は、福島事件に関連して国事犯として明治17年から同22年までこの獄中にあった。ちなみに、西南戦争関係の国事犯で後に外務大臣・伯爵となる陸奥宗光は、宮城集治監ではなく宮城県所管の監獄に収容されていた。

明治36年、監獄は所管が国に一元化され、宮城集治監は宮城監獄となって宮城県所管だった仙台監獄を翌37年に統合し、大正11年に名称変更して宮城刑務所となった。昭和17年からは未決拘禁者の収容施設(現在の仙台拘置支所)も移設されている。

平成16年から開始された宮城刑務所の全体改築に伴う発掘調査で、城の様々な遺構が発見され、同18年には文化庁、法務省、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会の4者間で、「若林城跡については、可能な限り早期に史跡指定に向けた取組を行うものとする」と了解された。若林城跡は江戸時代の史跡としても重要だが、宮城集治監以来の宮城刑務所としての歴史も150年近くあり、江戸時代の城郭と明治時代の近代刑務所との「複合遺跡」と捉えて史跡保存が進められることが望ましいのではないかと考えるものである。